

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成21年(2009)新春号



「ふとふり返ると 近藤喜文画文集」(徳間書店)より 説明文2ページ

東京同窓会の更なる発展を願う

同窓の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年6月に開催されました第51回大会の役員改選に於いて会長に選出され、一期2年間務めることになりました。今後とも、どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、昨年新春号(No.44)にて述べました通り、会員拡充の準備が整い、昭和34年卒の11回生から平成7年卒の47回生(既に会員登録済み者を除き)までの関東圏松高卒業者宛てに1,120通のアンケート調査書を、昨年4月21日メール便にて発送しました。アンケートの内容は(1)東京同窓会に対し①関心があるか

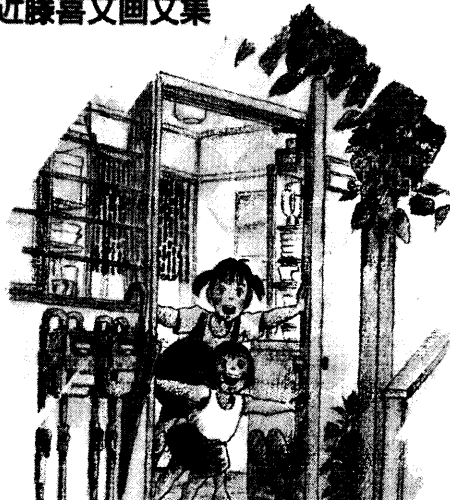
松高東京同窓会会長 鈴木 多喜男(高4回)

②入会の意味はどうか(2)年会費は現在3,000円であるがどう思うか(3)会に対してご要望・ご意見があれば、というものです。やがて、宛先不明で121通が戻り、返信数174通のうち、関心がある又は可能性がある人が84人ほど居られましたので会員として登録し、各種ご案内を発送する段取りをしました。そこで新規に51回大会のご案内を100通ほど出したところ、7人の方々に初めて出席いただき、ここから徐々に若い年代へと広がって貰いたいものと願っております。

今後の方針として、返信のあった174通を再度精査して辛抱強く勧誘を進めるとともに、東京同窓会の魅力作りにも幹事一同知恵を傾け努力しなければなりません。今年は東京同窓会を更なる飛躍の年にしたいものと幹事共々念願しておりますので、皆様の一層のご助力を切にお願い致します。

年頭にあたり、会員の皆様には益々ご健勝で発展されますよう心よりご祈念申し上げます。

ふとふり返ると 近藤喜文画文集



「坂を登り、ついに山の向こうに青い海の広がりを見たような
晴れあがった空のようなつきぬけた解放感が彼の絵にはありました」

宮崎 駿

表紙の絵が納められている近藤氏の画文集

謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます

- 副会長 伊藤 勇五(旧中33回)
- 副会長 斉藤 和男(旧中33回)
- 副会長 杵淵 政海(高2回)
- 副会長 渡辺 八郎(高3回)
- 副会長 金子 鶴男(高5回)
- 副会長 深見 洋子(高7回)
- 会計監事 佐久間英輔(高6回)
- 総務委員長兼務 鈴木多喜男(高4回)(暫定)
- 財務委員長 塚田 勝(高8回)
- 広報委員長 大橋 貞夫(高10回)
- 事務局長 石黒 四郎(高9回)
- 幹事一同 47名

——表紙について——

表紙の絵に近藤氏の次の文がある。除夜の鐘を聞きながら近くの神社へ2年参りに行った。初めて行ったその神社は丘陵の上であり、狭い境内からは180度の展望が出来た。暗く沈む夜景は、近くの団地のあかりだけが目立つ。境内では神殿と提灯の柔らかい光を飲み込むような焚き火がすごい。投げ込まれる太くて重たい木が夜空に火の子の柱を立てる。花火を見るように喊声をあげ背中をあぶる。お神酒、おでん、甘酒が無料でふるまわれ、新しい年が明けてゆく。来年もこよう。

略歴 近藤喜文氏(高20回)は小学生の頃から絵の上手なことには定評があり、松高に進学してからは美術部に所属して友人と同人誌「ペンだこ」をつくる。在校時、周囲の環境にも恵まれ膨大な量の絵を描きながら、人の情に溢れた暖かい眼差しが培われ、熟成していったようだ。近藤氏の監督作品、スタジオジブリ制作のアニメ映画「耳をすませば」の他、「巨人の星」「ルパン三世」「未来少年コナン」「火垂るの墓」「魔女の宅急便」「もののけ姫」など、作画監督や演出を手掛けた作品は枚挙にいとまがない。1997年暮れに解離性大動脈瘤に倒れ、翌1月21日早朝、47歳の若さで永眠された。23日の葬儀では「耳をすませば」の主題歌「カントリー・ロード」が流れる中、500人余りの弔問客が見送った。

特異な学年・喜寿同期会

真島 節朗 (高2回)

喜寿と言えば77才、満だったり数えだったり、当然もう過ぎた人もいます。<松中34回・松高2回卒同期会>が10月5日夕刻から6日午前まで一泊で、新潟県・湯田上温泉「わか竹」で開催されました。31人という参加者が多いのか少ないのか、年齢好から見て判断がつかい兼ねます。

わいわいがやがやの雰囲気は他の同期会と変わりありません。ただ、松城健児の中では特異な経験を持つ年代で、話題としてもそれに関連することが多いのです。昭和6年、満州事変勃発。翌7年5.15事件(軍人によるクーデター)の年に生まれ、松中2年生の夏、終戦になるまでずーと戦争続きでした。

それから、あの校舎に通った期間が、卒業まで最長6年、以下5年、4年、3年が無く最低は1年という変則的な体験です。それは転入とか留年でなく、順調に入学し卒業している人の場合です。くわしく説明すると長くなるので簡単に言います。

昭和19年に松中に入学、戦後の学制改革で中学5年が新制高校の2年ということになり、中学・高校の合せて6年、4年と5年は旧制中学の卒業資格要件で卒業した人、1年というのは村松高等女学校と合併になり、新制高校3年に進学希望の女子生徒です。今回は参加者ゼロでしたが同期にとっては貴重な存在です。

もはや、伝説として残るかどうか。終戦間際には校舎が軍事物資倉庫や作業場として徴用され、田植えや飛行場滑走路建設などに勤労働員されたこと。敗戦を迎え旧兵舎に米進駐軍を迎えたこと、積み立てもなくまとまった修学旅行はなかったが、工夫してキャンプなどで楽しんだことなどなど、いつもの話がはずみます。

こうして何の事故も無く2年に1回の例会を終えました。そして次回は松中・松高100周年に合わせ、3年後とすることに決議しました。今度は傘寿です。



平成20年10月5日 松中34回・松高2回卒 同期会
於 越後乃御宿 わか竹

高4回生・湯沢温泉で同期会

鈴木 健司 (高4回・東京在住)

我々の同期会は地元村松の幹事役が企画し隔年ごとに開催しております。今年はその同期会が湯沢温泉の『ホテル双葉』で開催されました。

10月14日(火)一泊で懇親会という次第でした。参加者総勢50名と、まあまあのペースだったのですが、今回欠席された常連の方々の「事情」を列挙してみますと、「業務上の都合」「スケジュール不都合」「本人の体調不良」「配偶者の看病・介護」「家族の看病・介護」等々が並んでいました。後半の理由には、「後期高齢者集団になりましたね〜」とつくづく感じたものです。それにしても女性の人数が、やや少なかったのが気になりました。

開会の辞・物故者への黙祷・乾杯の後はお互いに席を移動して、思い思いの旧友との懇親会となりました。

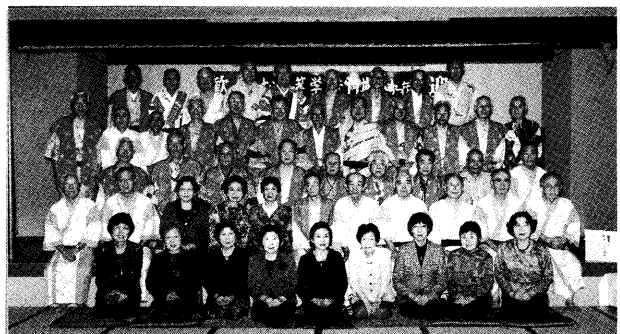
「往年の美少女・美少年」の面影を思い起こしながら、差しつ差されつ乾杯をし、談笑し、楽しい夜長の秋の宵を過しました。我々の同期会は毎回盛り上がります。

「正に人後に落ちない盛り上がり」と自負していますが、我々が思春期・青春時代に共有した特異な共通基盤体験に根差すものと考えています。

我々同期生が共有している特殊な時代背景体験につきまして、少々触れさせていただきます。①多感な思春期時代に体験した、敗戦による価値観・歴史観・社会構造の激変。②疎開児童だった東京育ちの方々・外地から引き揚げの方々を並べたことは、異文化との衝突体験でした。③旧制中学校へ最後の入学をしたため、高校1年生までの4年間は常に最下級生だったことと、多くの同期生が、同じ学校で6年間一緒に過したことの連帯感。④村松高等女学校と合併のために実現した男女共学体験。⑤日本の高度成長を支えた自負心と、喜寿を目前にしたお互いの健康への祝福と感謝の心。等々です。

翌15日(水)は、朝風呂の後には『きのこ汁』のもてなしを受けました。朝食の後に散会となり、お互いに2年後の再会を誓い合って、JR・マイカー・ホテルの送迎バスなどで、それぞれの家路につきました。

幹事さん、ありがとうございました。



村松高等学校4回生同期会 2008/10/14
於 越後湯沢温泉 ホテル双葉

松高東京同窓会・第51回大会報告

平成20年6月21日(土)正午、昨年に引き続き皇居に隣接するKKRホテル東京10F「瑞宝の間」に於いて新潟県立村松高等学校東京同窓会の第51回大会が開催された。来賓として、母校より小島正芳校長、村松高校五泉会より坂上洋司代表を迎え、総勢97名の出席となった。

定刻の正午に郡司(高16)、森田(高16)両幹事の司会で始まり、渡辺実行委員長の開会宣言、鈴木会長、小島校長の挨拶に続き、この度、初めて村松高校五泉会の坂上洋司(高5)代表にご出席をいただき、東京同窓会の熱気と盛会ぶりに感嘆した旨のご祝辞を頂戴した。その後、総務・財務・広報各委員長報告があり、それぞれ承認された。今回は役員改選の時期であり、新会長に鈴木多喜男氏を選任して第一部は斎藤副会長の閉会の辞で終了となる。

第二部の講演会は、『江戸の歴史を歩く』という演題で

講師には「江戸を歩く会」会長の雲村俊徳(高5)氏にお願いした。赤穂の四十七士が吉良邸に討ち入り首尾を遂げた後、品川の泉岳寺までどのような道程で行き着いたのか、船も利用したのではないかなど、興味深いお話であった。江戸の町は渦巻状に発展しており、無限に拡大する可能性を秘めているのだと言う説は、特に印象に残るお話であった。短い時間のため話し足りないご様子で、雲村氏には不満の残る講演ではなかったかと、真に申し訳ないことでした。

第三部は伊藤副会長の乾杯音頭により懇親会の開始となる。一年振りの再会を楽しみながら、笑顔で杯を重ね合う姿を見ていると、しみじみ東京同窓会が存在している良かったな〜と思うのである。二次会では今回初めて参加した安中(高20)、坂上(高21)、滝沢(高22)の3氏が紹介され、大賑わいのうちにお開きとなった。

大会実行委員会 記

東京同窓会・第51回大会収支決算書

平成20年6月21日(土) 於 KKRホテル東京

収入の部					支出の部			
項目	内訳	人数	金額	合計	項目	内訳	金額	合計
①懇親会費		95名	8,000	760,000	①懇親会費		750,000	750,000
	男子73名		584,000					
	女子22名		176,000		②講演謝礼(雲村氏)		30,000	30,000
②祝儀		2名		20,000	③本部対応費		5,250	5,250
	同窓会本部		20,000		④準備費			86,455
						会議費会館使用量	20,760	
③会員寄付		3名		45,000		総会案内に関する		
(敬称略)	雲村俊徳		30,000			切手・はがき	56,190	
	向山律子		7,000			コピー	4,010	
	八木又一郎		8,000			会報・資料送料	3,160	
						抽選用荷札・封筒等	2,335	
二次会残金				5,000				
合計				830,000	合計			871,705
	一般会計から補填			41,705				
総計				871,705	総計			871,705



校歌・応援歌の熱唱



名司会者 郡司・森田のお2人



伊藤副会長 乾杯!



第51回 東京同窓会出席者名簿

平成20年6月21日(土)

於 KKRホテル東京 10F

新潟県立村松高等学校東京同窓会

来 賓	旧中学校 (2名)	高 校	高 校	高 校	
村松高等学校校長 小島 正芳 様	3 3 伊藤 勇五	0 5 新井 康夫	0 9 阿部 勇	1 5 高橋 隆	
	3 3 斉藤 和男	0 5 石川 滋	0 9 石黒 四郎	定 1 2 高岡 光夫	
村松高校五泉会代表 坂上 洋司 様	旧女学校 (4名)		0 9 熊倉 富次	0 9 間藤 謙一	
	2 5 小林 早月	0 5 熊倉 芳夫	0 9 熊倉 富次	1 6 今井 貞夫	
	2 5 近藤 昌子	0 5 雲村 俊愷	0 9 熊倉 富次	1 6 小黒 正恒	
	2 5 佐藤 治	0 5 佐々木 恵美	1 0 大橋 貞夫	1 6 郡司 正大	
	2 5 佐藤 玲子	0 5 佐藤 良平	1 0 近藤 尚志	1 6 中村 俊枝	
	高 校 (89名)	0 5 高尾 桂子	0 5 高尾 桂子	1 0 新保 優	1 6 服部 修治
		0 5 高濱 つる子	0 5 高濱 つる子	1 0 関谷 雄二	1 6 森田 勝美
		0 5 山崎 豊吉	0 5 山崎 豊吉	1 0 関谷 雄二	1 6 森田 勝美
		0 2 川上 博萬	0 5 山崎 豊吉	1 0 高岡 雄三	1 8 青木 敏和
		0 2 杵渕 政海	0 6 畔田 昭義	1 0 中川 善隆	1 8 浅見 祐治
		0 2 倉田 健五	0 6 佐久間 英輔	1 1 佐藤 赳	1 8 安中 幸男
		0 2 篠川 恒夫	0 6 沢出 赳允	1 2 安部 實	1 8 笠原 静夫
		0 2 堀川 俊郎	0 7 加藤 喜七	1 2 今井 英雄	1 8 斉藤 正義
		0 2 丸山 貞次	0 7 深見 洋子	1 2 岩野 忻史	1 8 佐々木 秀和
		0 2 村川 五郎	0 8 岡部 ユキ	1 2 近藤 洋輝	1 8 高岡 英治
0 2 築取 正通	0 8 片柳 ムツ	1 2 高岡 五百子	1 8 平松 伸一		
0 3 渡辺 八郎	0 8 木村 孝子	1 2 徳永 道子	1 8 広瀬 満子		
0 4 梶谷 庄祐	0 8 小出 博三	1 3 金子 健二	2 0 安達 繁子		
0 4 坂上 卓夫	0 8 鈴木 輝雄	1 3 波多野 紀子	2 0 安中 信夫		
0 4 下野 文幹	0 8 高地 彰	1 4 石黒 勝夫	2 1 坂上 三夫		
0 4 鈴木 健司	0 8 塚田 勝	1 4 伊藤 昌夫	2 2 滝沢 義則		
0 4 鈴木 多喜男	0 8 波多 ミサエ	1 4 木村 寿一	2 5 林 信子		
0 4 山田 幸子	0 8 松尾 正春	1 4 山田 俊治			
0 4 渡辺 嘉樹	0 8 村川 忠司				
	0 8 山崎 輝雄				
	0 8 山西 愈佐子				
	0 8 吉井 清				

出席者計—97名

平成21年度 松高東京同窓会開催のお知らせ

■ 日時 21年7月4日(土)

正午開催

■ 場所 KKRホテル東京

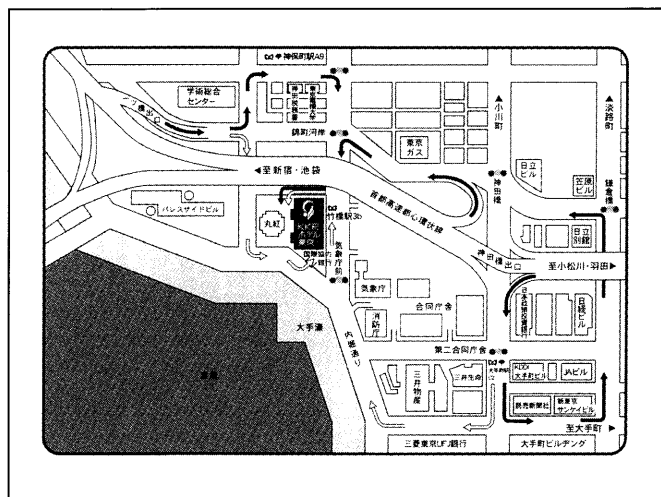
千代田区大手町1-4-1

Tel : 03-3287-2921

交通 ●地下鉄東西線竹橋駅下車
(大手町駅寄改札から専用3b出口直結)

●地下鉄千代田線大手町駅C2出口より5分

●都営地下鉄神保町駅A9出口より5分



村松中学校、開校直後の廃校の危機を乗り越える

県立村松高等学校長 小島 正芳

明治44年4月27日、寄宿舎が開かれ、最初に入ったのは泉田重太郎1人であったが、3年後には3~40名になった。寄宿舎は生徒室が8室あり、その他に談話室、図書室、静養室、舎監室、食堂、湯殿、盥があった。舎監は成澤教諭があたり、父の如く寄宿舎生を指導した。寄宿舎の日課は朝5時の起床と体操・自習に最初は自炊であった。各自が仕事を分担し、規律の取れた生活を送っていた。勉強を良くし、自治的に良く訓練されていたので、成績も優秀な生徒が多かったという。そのため、学校の近くに自宅があっても、入舎して心身の修養をした者もいた。寄宿舎の行事は金曜日に「修養会」があって、訓話や意見発表、寒中の裸体操、呼吸法静座法も行われていた。時には肝試しもあって、正に修養の場であった。そのような意味で寄宿舎は、学校生活と連携して理想的に人格形成ができる大切な場でもあった。

5月9日、職員生徒一同が講堂に参集し、学友会の発会式が行われた。林校長が学友会の組織、設立の趣旨、目的を訓示している。学友会は現在の生徒会のようなものであるが、設立の趣旨を一言で言えば、学芸部と武術部、運動部がそれぞれ切磋琢磨し、校風を高めるようにと云うものであった。学友会規則の第一条に「本会は子弟学友間の情誼を厚うし各自心身の練達を図り校風を振興するを以て目的とす」とある。

林校長は5月18日、全校生徒に「本校の体育に関する意見訓示」を行っており、その中で、

野球庭球の如きは、之を盛んにすべしと雖も、決して他の学校と競技をなすが如きは、自ら進んでこれを為すべからず。競技は奨励の手段たりと雖も、本校の目的は、身体の鍛錬を目的とするものなれば、競技の優勝を争うは、偶々弊害ありてその効少なきを認む。

断じて競技に熱中するが如きを禁ず・・・。

と述べ、野球や庭球に熱中して他校と試合をしたり、勝負事のみにつつまを抜かすは、弊害があると述べている。宮波治郎によると「その頃（明治45年）運動としては剣道とテニス位のもにであって、競技も野球も柔道もなかった。」と記している。

村松中学校設立当初、最も盛んだったのは剣道だと思われる。もともと村松藩のあった所だけに、昔の士族で剣道をする人達がまだ残っていた為、少年時代より剣道をする者が多かった。また、村松には三十連隊があったため、青年将校達が時々やって来て剣道の指導をしていた。更に加えて、明治45年3月31日付で村松小学校の訓導金子真三郎を囑託として招聘し、大正3年4月1日付で剣道専門の浜田芳男が着任すると増々盛んになった。林校長は剣道が、精神教育の上でもスポーツの中で別格のものと考え、奨励していた。当時、剣道の寒稽古



51回東京同窓会で挨拶される小島校長

は、朝の3時に始まり1ヶ月もの長期間行われていた。本校創設以来の事務官であった神戸安世は、剣道の練習風景について

県下中学校の試合には出場の都度優等の成績を獲得したものである。剣道の寒稽古になると軍隊から若武者連中を招き銃剣術でたたき上げたので、現新潟市白山高等学校長中野二郎先生や岡村三郎博士などは指南役に進み、胴には甲手ありなど掌を返すあたり、今でも眼に見える様である。と記している。

6月24日には盛大な開校式が挙行されている。列席者は清棲家教知事始め野澤連隊長・衆議院議員・県会議員・町村長など270余名であった。清棲県知事は訓示の中で、

本県中学校は従来少なしとなさず、而して尚本校を創設したる所以は、茲に中等教育を普及し、以て国民の中堅人物を養成し、また地方の実力を増進せしむるの要を認めたるに依る。

と述べている。

尚、開校式当日村松町他11の村から佐渡の鍔金家本間啄齋の手になる銅製の花瓶が寄贈されている。価格は当時80円したという。地域の方々の多大なる期待がこの花瓶に込められているのを感じる。

明治45年3月28日付で、清棲知事に代わり森正隆知事が赴任してきた。森知事は政友会に属していたが、着任するや清棲前知事の政策を非難すると共に緊縮財政を敷き、県立中学校についても校数の削減を示した。5月6日森知事は、招魂社参拝の途次村松中学校に寄り、



校長室で林校長・神戸書記に質問を浴びせかけている。募集人員や志願者数や生徒の様子を聞かれたらしいが、「生徒は真面目で一生懸命勉強している」と答えたのが効を奏したのか、廃校にはならなかったものの、大正2年3月31日付で新発田中学校の分校になることが発表された。なお、小千谷中学校・糸魚川中学校・巻中学校の三校は、県立中学校から群立中学校に移管されている。林校長は分校主事という身分になり、肩を落としていたという。教職員は、全員新発田中学校の職員に任命され、村松分校勤務を命じられている。生徒は3学年まで村松で教えるということになった。4・5年生になると新発田に籍を移さねばならないと云うのは、経済的にも利便性においても大変不都合な事であった。また、募集学級も削減され、1学級50名の募集となった。このため、入学志願者も激減し、本校は創立早々大きな危機を迎えるのである。

5月7日、新発田中学校の小平高明校長が村松分校を視察している。その時の様子を第1回卒業生式場隆三郎は、本校の創立40周年記念講演の中で、

新発田の校長を、丁度、今日マッカーサーか、リッジウエーを迎えるように、全校校門に勢揃いして迎え、若き血を燃やし、涙を流した事もありました。しかし今では、教育の土地としてこの地域社会の中心となつて行くのであるかと思うと喜びにたえません。

と語っている。

この屈辱的な施策は、本校の職員や生徒に大打撃を与えたが、必ず独立校に復活させるのだという意気を強く持ち、日々奮闘努力していた。また、県会議員・町内有志・近辺の町村長・保護者等が独立校復活のために奔走した。大正2年11月5日、安藤謙介県知事が本校を視察に訪れ、林校長から学校の状況を聴取した。この時、四戸中蒲原郡長・小風村松町長・片桐父兄会長はじめ町会議員・有力者は中町の海老屋楼にて歓迎会を開催し、知事に独立校として復活させるよう陳情している。これらの猛烈な運動が効を奏したのか、村松中学校は大正3年4月1日より、復旧独立校となった。この時のことを林校長は、

この時には実際余も当惑したが、併しこれは好き訓練であったと善く解釈して緊張に緊張を加えて、校風の堅実と精神的訓練とに猛進したので、生徒の気風と実力とは極めて良好に向つたことは、今にも思い出の深いものがある。

と記している。大正3年4月より独立校に復旧されたものの、従来2学級募集だったものが、1学級募集に削減された。しかし、危機的状況におかれたのが幸いしたのか、教職員は今まで以上に教育に情熱を傾け、生徒の学業成績は実際年を追うごとに向上した。

大正4年には、「県下中学校比較試験」が実施されるようになる。この試験が実施されるに至った経過は、中等

学校長会議で本県の中学生の高等学校への入学率が全国35位であることが問題にされ、その対応策として急浮上してきたものらしい。試験は翌大正5年2月25～26日に県下12中学校の5年生全員を対象に実施された。実施科目は数学、国語、漢文、英語であった。この時の様子を林校長は後年、

この第1回の比較試験は第5学年のみ行われたが、其時の成績は総平均点においては村松中学が1位を占めた。尤も優等者は新潟中学校の方が多かった。第2回の比較試験即ち大正5年には新潟中学が第1位を占めて村松中学は第2位であったが、ともかく成績は県下中学校では優良な地位を占めていたのである。これは良教員の揃ってをつたことと教員の熱心であったことが勿論大なる原因ではあったが、生徒の素質が優良であるのと好學心の盛んな地方であることと真面目で勉強するといふことが主なる原因であらうと思われる。と述べている。この新潟中学校を平均点で凌駕したというのが、先ほども多士済々ぶりを紹介した第1回入学生である。この学年は、入学した時に比べかなり生徒数が減り、精鋭揃いであった。

第2回目の試験は、英語、数学の2科目で行われ、優秀者は次のように発表されている。

2科目平均90点以上・・・長岡中学1名
85点以上・・・新発田中学2名
長岡中学2名
村上中学1名
80点以上・・・高田中学2名
新潟・村松・長岡・佐渡・小千谷中学 各1名

この試験は、村松中学校第3回入学生が受けている。80点以上を取った村松中学校の成績優秀者片桐孝一は、大正6年3月13日の卒業式において県知事（加勢学務課長知事代理）から表彰されている。なお、片桐は本校から東京工業専門学校に進学している。そして、その後旭化成工業に入社し、副社長になっている。

第1回卒業生名簿に名を連ねている者は、正確に言うと42名であった。入学した生徒の内、実に30名の生徒が、卒業生名簿に名を連ねることが出来なかったのである。落第等いろいろな原因があったと思われるが、当時は卒業に至るまで大変険しい道のりがあったものと推測される。この最初の卒業式の前々日の3月11日には、校旗樹立式が挙行されている。

ところで、初代林校長は最初の卒業生を送り出す半年前の大正5年9月14日、長岡中学校長に転任している。大変な栄転といわねばならない。20日に、職員生徒一同、林前校長を五泉駅に見送っている。しかし、林校長は1年程で長岡中学から柏崎中学へ異動になっている。そして後年、村松中学こそが自分の理想の中学校だったという内容の随筆を記している。

同期会にはロマンがある

雲村 俊慥 (高5回)

秋色に染まり出した越後平野を上越新幹線が新潟市を指して疾走していた。2008年10月6日の昼下がりのこと。村松高等学校第五回卒業生の同期会(通称・松五会)が市内の東急インで開かれるからである。

これまでの会は東京の幹事団が張り切って準備を進めてきた。ところが、今年は違う。新潟の幹事団が「今度は俺たちがやってみよう」と提案してくれたのだった。坂上洋司君、荒井 裕君が三度も打ち合わせに上京してくれていた。それだけに、東京から参加を決めた23人の意気込みも高らかである。

その気持ちはホテルに待機していた新潟組の35名も同じだったにちがいない。列車を降りて会場に駆け込むと、受付前のフロアはたちまち嬉しい歓声に包まれてしまった。

全員73歳から74歳のはずである。そのおじいちゃんとおばあちゃんたちの顔が、たちまち松高時代のきらきらした輝きを取り戻したように見えてきた。

新潟の幹事が言うには卒業以来、初めて顔を見せた人が8名はいるそうである。加藤久孝君、川村正敏君、高岡岑郷君、辰喜秀雄君、金子(今井)裕子さん、中村(昆)律子さん、萩野(飯利)玲子さん、布川(大橋)ケイさんなどは私にとって56年ぶりの懐かしい人だった。最初は「まさか?」と思う。よく見詰めていると、「やっぱり」と納得する。

とにかく、60人近い人たちが円卓に着くと、結婚式に出席したような錯覚を覚えてしまう。挨拶も硬くなりがちだ。ここで松五会の創設者である金子鶴男君が「同期会にはロマンである」と名言を吐いて乾杯の音頭をとる。この辺りから会場の空気も和らぎだした。



第19回 松五会 平成20年10月6日(於 新潟東急イン)

同期会は、いつかは必ず消えてなくなる。その追憶の灯を少しでも長く燃やし続ける作業に、いま打ち込んでいるように思える。そうだ、ロマンだ。ロマン以外の何物でもない。

阿部龍介君は食道癌の術後、病弱な妻をショートステイの施設に預けてまで出席してくれた。私も胃癌を患って胃を全摘し、心筋梗塞で心臓のバイパス手術を受けている。仲間の中にも、同じように九死に一生を得た人たちが大勢いるはずだ。だが、それでも来る。なんと美しい人間の集いだろうか。

「校歌は涙を誘う効果があります」と一同を笑わせて

酒井邦男君と松島光俊君がリード役を買って出た。♪伸びてしまめ若松の～は涙よりも、やや老いた身体をシャンと立て直してくれる効果は十分にあったようだ。

翌朝、81万人の政令都市・新潟をバスで巡る。高橋士郎君の真心のこもった手造りガイドが心に染み渡った。ふるさと村で昼食を摂れば、あとはお別れしかない。新潟駅で一人ひとりが手を取り合った、「さようなら」、「また会おう」。来年も新潟か、それとも東京か。手の温もりを大切に新幹線に飛び乗った。

生きがい

佐藤 信三 (高6回)

原稿依頼があった時に二つ返事で応じたのは、毎年投稿している「村松万葉」に、今年は「生きがいものがたり」と題する現役を退いてからの十三年間を綴った拙文を思い出したことにある。

生きがい…生き甲斐とは? 普段はあまり考えずに過して来たことであるが、原稿に書いてみると、家内が校長をしていた亀田文化専門学校の手伝いを始め、県国保連合会OB会の会長、亀田第六区町内会長と関連するボランティア。地元小学校の評議員、近年発足したコミュニティ協議会の役員、新潟市保険医療推進委員、地元神社・菩提寺の総代など約十五程のお手伝いをしていることが整理されていた。

日常生活の中では、十年ほど前から生田流のお琴に週一回通い、健康増進と保持のために殆ど毎日、家内と卓球に汗を流していること。それに時間があれば、ウォーキングに努めている。

また、可愛い内孫、外孫達五人の成長も広い意味での生きがいである。

このようなことが、昨今の団塊の世代として現役から退いている方々の為の参考にと書いていた。

ところが、時たまたま、九月三十日から十月一日にかけて放送されたNHK ラジオ深夜便(聴かれた方がおられたかも知れませんが…)で須磨津津江アンカーによる“日本の歌、心の歌”で私の好きなお酒にまつわる歌を聴き、ハッとしたのである。私の生きがいの一つに“歌”もあったのだと。

それは、美空ひばりの「悲しい酒」を始め「酒場にて」「二人でお酒を」「酔っ払っちゃった」「夢追い酒」「北酒場」「酒と涙と男と女」「メモリーグラス」などであった。

なお、私が現役時代から尊敬し続けている、あの高名な日野原重明先生の書かれた「生き方上手」は、私の心の支えとなっている。“人生は生き方上手になってほしい。人生は習慣である”と云った学者がいたが、習慣を早くから配慮した者は、人生の実りが大きいのである。例えば食事、嗜好品、運動、仕事、睡眠、そうした日常生活のあり方が一生の健康を保証するし、自分の健康は自分で守ることになって、医者まかせ他人まかせにしないことが大切だと思う。以上先生のまとめを記し、私の生き甲斐を考えてみた。

昭和33年卒5組のクラス会

新保 優 (高10回)

2008年9月にクラス会があり、群馬県の伊香保温泉に総勢21名が集まった。今回は女性の出席が4名と少なく、少し寂しかったが、総員の6割が出席する盛況であった。

数年ぶり、また卒業以来の人もあり、昔の顔を思い出しながら旧交をあたためた。その一方、病気に苦しめられた人も増え、古希を迎えた我々の経てきた歳月の長さを感じた。また、以前には必ず出席されていた担任の権瓶先生は、今年亡くなられた。

大浴場の茶色い温泉にゆっくり浸かった後、宴会になった。そこで恒例の、各人の近況報告となったが、幹事は先手を取って、病気の話を禁止した。しかし話題は最大の関心事である持病の方に行きがちであった。

そのうち隣室の騒音と、耳の聞こえが悪くなったのとで、「聞き取れない」の状況になり、さらに周りとの会話がはずんで「聞いていない」が重なって、話し手には申し訳ないことになってしまった。そのかわり、宴会後の懇親会では話が盛り上がり、夜遅くまで続いたので寝不足になった。



ご機嫌な面々

翌日は一部の帰宅組と別れてから、ガイド付きのバスで観光旅行となった。

始めに榛名山に登った。平日の朝で雨模様のためか、行きかう車も無く、榛名湖畔は人影も見えなかった。だがロープウェイでは、近鉄バスの観光客と行き合わせたので、ゴンドラの中や山頂では、予期しない混雑になった。しかし雨が上がり、霧も晴れてきて、頂上からは周りの山々や町並みが遠くまで見下ろせた。

その後、保科美術館を見学した。榛名山にアトリエがあった関係で、このあたりは竹下夢路に縁の深い土地だそうである。この美術館にも夢路の豊富なコレクションがあり、高名なその絵を充分に見ることが出来た。しかし同時に展示されていた見事な日本画や彫刻の方が、私にはより強く印象に残った。

美術館の玄関脇に、なぜか足湯が設えてある。好奇心

旺盛な我々は、当然それも試した。

昼食は水澤うどんであった。水澤観音の近くでは、うどんの店が道の両脇に連なっていた。恥ずかしい事に、私はこの名物を知らなかったが、腰が強く美味しく上に、腹持ちも良かった。これを土産に買った人も多かった。食事をした店でも竹下夢路の絵がかざられていた。

食事の後、水澤観音に御参りした。ここは由緒ある古いお寺であり、広い境内の中に沢山のお堂や石碑がある。信心深い我々は、そのほとんどを参拝したが、長くて急な石段の上に建っているのもあり、結構な運動になった。

最後にホテルに戻り、2年後の再会を約束して帰途についた。

総会抽選会でゲット!!

木村 孝子 (高8回)

総会の抽選会はいつもワクワクしますネ。私、今年は雲村俊造(高5)先輩が著作の「東京江戸散歩」をいただきました。ホントに超ラッキーでした。

半日で歩ける東京の散歩コースが35通り紹介された文庫本です。パラパラページをめくると、すぐにも歩いてみたいコースばかり……。仲間達に声を掛け小さな小さな「江戸を歩く会」を発足させました。始めて4回目にあたる9月9日は江戸の繁昌②銀座でした。毎年、趣味のほり絵展を当地で行っていることもあり、銀座は私の大好きなエリアです。安くて美味しいお寿司でお腹を満たし、全品5000円均一のカバン店に必ず立ち寄り、どんどん増えていく高級ブランド店を横目でチラチラ、最後はデパ地下でスイーツとお惣菜のお買い物……。こんなところが私のいつものパターンでした。

でも今度ばかりは大違い、新しい発見の連続でした。10時半、銀座線の京橋駅をスタート……。その日の参加者は6名でした。銀座発祥の碑からガイドコースに沿って塩竈神社までは、持参した万歩計で測ると1万2千歩余り。老体を労わりながら、見落としがちな記念碑等を探し探し歩きました。警察博物館では、小児から大人までサイズの豊富なお巡りさんの制服に感激!!無料で試着して写真を撮る事が出来ると聞き、自分も……。な一んでチラリと頭をかすめましたが、恥ずかしいので止めました。三越の屋上には銀座出世地蔵が祀られており、同店で開催中のジミー大西さんの個展まで観ることが出来ました。日々変化していく東京のシンボル銀座!でも、少し視点を変えて歩いてみると、古き良き時代の江戸の面影をたくさん見つけることが出来て嬉しくなりました。

ゆっくり昼食で体を休め、また一頑張り。終点の塩竈公園では涼しい木陰を見つけ、またまたお喋り……。心地よい疲労感に酔いながら「次回(は)両国ね」と4時過ぎに解散しました。

総会の抽選会で頂いた素適なプレゼントで、私にとって全く新しい銀座散歩が出来ました。



滂沱の涙

佐藤 八重 (高3回)

「ハンカチ貸してくれない？」私は暗闇の映画館で、隣の席にいる夫に声を掛けた。夫はポケットの中からハンカチを取り出し、そっと渡してくれた。今日は夫と二人で、私が待ちに待っていた話題の映画「硫黄島からの手紙」を観にきていた。客席は、まばらながらも私達と同じように、少年少女の頃に戦争で悲しい経験をした年代の人たちが目立っていた。

東京である硫黄島は、61年前、敵の本土上陸を防ぐ重要な砦としての役割があったという。その為、数少ない激戦地の一つとして今も内外を問わず語り継がれ、敵国であった米国の人も、勇敢に戦った日本兵を褒め称えてくれるという。

しかし、本土を守る筈だった島も昭和20年3月17日、ついに守りきれず全員玉砕という悲しい結末を迎えた。私の大切な兄も、その玉砕した兵士の一人として、硫黄島の土となってしまった。

兄(註①参照)の戦死から61年の月日が流れ、今日は久しぶりに亡き兄と再会したような気がした筈なのに、このためどなく流れる涙はどうしたことだろうか。今までも折にふれ涙することもあったが、今日は小さなハンカチでは抑えきれず、夫のハンカチを借りる羽目になってしまった。61年分の悔し涙と、懐かしさの涙が一挙に噴き出したのだろうか。

昭和19年の秋、36才の兄は、未だ父の顔を憶えきれないような年子の娘2人(註②参照)を残し、あたふたと戦場に狩り出されてしまった。硫黄島に居ることを知らない家族は、何処からか送られてくる兄の手紙を喜んで読んで、無事を祈っていたものだった。出征して行く時の兄とは、軍人だけを乗せた列車を隣の駅で見送るのが最後の別れとなったが、「俺が国を守り、愛する家族を守る」と言う自信に満ちた笑顔いっぱいだった。あの笑顔は、今もはっきりと憶えている。

その兄の墓は、ふるさと新潟の両親の墓と並んで建っている。骨壺のない空っぽの墓に手を合わせるたび、空しさだけが胸に残る。私は、今でも硫黄島に眠っていると信じたい。何故ならば、国を守るため、家族を守るために、あの地で命を捨てた筈だから。

今は亡き義姉に、形見として遺していった兄の髪が、桐箱に大切に保管されていることを姪から聞かされて驚いた。義姉の死後、それを見つけた姪は、自分が大切にしまっておくと言っている。

「おばさんも、今度きた時に見てね。」

父の顔を知らない姪達2人よりも、私の方がずっとずっと悲しい想いをしているだけに、その場面を想像しただけで涙が溢れ出そうになる。早く兄の髪に触れてみたい気持ちと裏腹に、その時のショックを想像すると怖くなるが、勇敢に戦ってくれた兄に対して、心からの感謝の涙を思う存分流してみようと思う。

註① 兄・斉藤健太(旧中12回卒)

註② 長女・斉藤久子(松高12回卒)

次女・網干順子(松高13回卒)

病は気から

渡辺 嘉樹 (高4回)

先日テレビを見ていたら元NHKアナウンサーの山川静夫さんが70歳になってから脳梗塞、失語症、腸疾患と3つの大病をしたと話されていた。そして病気になると弱気になって、深い穴の底に曳き込まれてしまうような気持ちになってしまう。しかし、それを気力で頑張つて、元に戻る事が出来たと話されていました。

これをみて私自身の考えていたことは間違いでなかったと確信出来ました。私も山川さんと同じ昭和8年生まれで60歳と65歳の時に前立腺癌、心疾患と大病を患い落ち込んでしまつて同じ気持ちになりました。最初の病気の時は定年退職して、4月から新しい職場に勤めて2ヵ月後に血尿が出るようになり、当初は職場環境が変わつて精神的なものかと思つていました。

それでも10月に入って念の為に病院で検査を受けました。結果は前立腺癌と診断され、早急に手術の必要があると指示されました。

癌と聞いたときは大変なショックを受けました。帰宅してから家庭版医学書を読みあさりしました。そこには前立腺癌は自覚症状が乏しく、発見された段階で60パーセントの人が他の臓器へ転移していて、2年以内にその60パーセントの人が死亡する云々と書いてありました。こう云う時は最悪の事態を想定して仕舞います。40年間仕事一筋でやって来て、これから少しは遣りたい事が出来るかと思つていた矢先の事で、自分の不幸を嘆きました。でも一方で全摘手術が可能と云う事は、まだ初期の段階なのだと思つて手術を受けました。手術中に出血を起こし7時間も掛つたそうです。40日ほど入院して退院する時は、膀胱括約筋の機能が低下して尿漏れが続いており、紙おむつの世話になりました。

癌と診断された時点で、新しい職場の上司に退職を申し出たのですが「少し休養すると思つて病気を治してきなさい。待っていますよ」と言われたのです。この言葉は有難かったです。お蔭様でその後いろいろ事に挑戦できて今日があります。退院後一ヶ月ほどして出勤しました。職場は丸の内の気象庁から近く、朝は通常より1時間ほど早く家を出て電車の中では座らず、職場に着いてもエレベーターには乗らず、屋内階段で9階の事務所まで歩きました。最後の頃には各階の階段に付いている小さなキズまで分るようになり、下を向いて登つても今は何階か分る様になっていました。1月の厳寒期でしたが事務所に着くと汗をかいていました。また休日には紙おむつをして自宅近くの遊歩道を2~3km歩いたり軽くジョギングをしたり、腹筋運動などいろいろの事を試みて居ました。そして退院してから4ヵ月後に「おむつ」がとれたのです。この時の気分爽快さは今でも忘れる事が出来ません。何事も気力です。「必ず治してみせる」の心構えで「病は気から」を実感させられた貴重な体験でした。



江戸を歩く会、きっかけの話

近藤 尚志 (高10回)

奇しき縁というか、此度小生はひよんな事から、「江戸を歩く会」に入会し、まだ2回目ですが同会に参加して「江戸」を楽しみ始めました。

経緯は以下の通りです。即ち、小生は去る6月に松高の東京同窓会に何時ものように参加したのですが、席上の目玉として同校の先輩、雲村俊造氏(高5回)の「江戸を歩く」と題する講演がありました。小生は昔から池波正太郎の鬼平シリーズや、山本周五郎、藤沢周平の時代物のファンですが、当日のお話は赤穂47士が本所の敵討達成の後に芝の泉岳寺に引き上げて、亡主浅野長矩公の墓前に報告するまでの道筋を中心にしたお話で、誠に面白いものでした。その上、当日の席上の抽選で、同氏執筆による「江戸・東京散歩35選」(PHP文庫、数冊を同氏提供)が、当たりました。

早速同氏の円卓に押しかけて、お話をお伺いした所、同氏が主催している江戸を歩く会のことを知り、入会の手続きの為、係の人の連絡先を聞きました。その後小生からの連絡する間もあらばこそ、同氏から達筆なお手紙を頂き、手続きの上、入会させて頂いたものです。

同会は雲村氏が会長で、年6回夫々場所を決め例会を行っているとのこと(過去20年間に120回)。予め例会の担当者がロケハンを行い、謂れや地図などを準備します。参加者は、当日集合場所に集います。小生の第1回参加は7月に等々力溪谷と古墳、第2回は9月の護国寺、鬼子母神等。夫々、週日の午後からで、終わってから近くの名店で美味しい食事をしながら当日のお話をし、夕方の散会となります。会員は東京とその近郊の110名位ですが、そのうち、各例会には50~60名が参加しているようです。

ところで、7月の小生最初の例会では、出発点の大井町線等々力駅を出て直ぐに「(株)多摩電子」の看板を見付けました。本日の例会入会のきっかけとなった雲村氏の講演を企画した幹事の1人・大橋氏(小生と松高同期)の会社の筈です。恐る恐るドアベルを鳴らしてみたところ、彼が戸口に現れました。小生は例会の途中のため、ほんの少しの立ち話と、江戸を歩く会入会のお礼を言って別れました。・・・正に奇遇でした。

松高同窓会の縁で「江戸を歩く会」と言う面白い会に参加出来て幸いでした。皆様もこの会に参加してみませんか。



5世紀初めに作られた「野毛大塚古墳」は全国でも最大級の帆立貝式前方後円墳である

南八ヶ岳縦走の思い出

小黒 正恒 (高16回)

この夏、南八ヶ岳を縦走した。八ヶ岳の位置は、本州のほぼ中央・長野県と山梨県県境にあり、南八ヶ岳と北八ヶ岳に分けられる。南八ヶ岳は北に比べると荒々しい岩稜の連峰である。

1日目 新宿を午前10時発のバスで中央道小淵沢を通り、終点桜平に着く。そこから徒歩で起伏の激しい登山道を登り、オーレン小屋(2,315m)に午後3時半ごろ到着。小屋は水洗トイレが完備、檜風呂もあり驚いた。壁には色紙が飾られ、三浦雄一郎、野口健、滝田栄、志井共産党委員長等、著名な方が入山していた。夕食は名物の「桜肉(馬肉)のすき焼き」で強烈な匂いが部屋中充満し閉口したが、初めて食べる馬肉は柔らかく、味は思ったより美味しかった。

2日目 朝6時、靴紐を確りと締め、気合いを入れて登山開始。森林を抜け徐々に高度が上がり森林限界を超えると、広々とした硫黄岳(2,760m)山頂に到着。硫黄山荘で小休止。更に横岳(2,829m)に向け稜線を行くが鋸の刃のような岩稜が続く、鎖に掴まりながら這うように登っていく。途中高山植物が咲き乱れ、心が和む。横岳を過ぎると目指す主峰・赤岳が眼前に迫ってくる。稜線を歩いて赤岳展望荘に到着し、昼食休憩をとる。しばしの休憩後頂上を目指し出発。急勾配でごつごつした岩肌、息を弾ませながら一步一步登り、遂に1時35分赤岳頂上(2,899m)に立つ。天候に恵まれ、360度の眺望がきく。南アルプスの山並みに見とれ、しばし達成感、爽快感を味わう。今夜は赤岳展望荘に宿泊し、疲れた体を五右衛門風呂で癒す。夕食はバイキング方式で、山では初めての経験だった。

3日目 午前4時40分、小屋前広場でご来光を拝む。朝食後、一気に標高差1,200mを美濃戸口まで下山し、八ヶ岳温泉で汗を流し、バスで新宿へ午後5時半帰着。

途中参加者1名が足を挫き、ヘリコプターで下山する事故に遭遇した。折悪しく洞爺湖サミット開催準備のため、長野県山岳救助隊の大型ヘリが北海道出張中で、ヘリの手配も難航した。今回、2泊3日の南八ヶ岳縦走ツアーであったが、「登山は下山が終るまで細心の注意が必要」と再認識した次第である。



横岳から見た赤岳 ペイント

モンゴル国に夢を追う

石黒 勝夫 (高14回)

きっかけ

一昨年(2007(平成19)年)の8月でした。旧郵政省で40年、その後、財団法人、民間会社で6年、合計で半世紀近い46年も働き、そろそろ退職して元気なうちに好きな趣味などに思う存分楽しもうと考えていました。

ところが、ある知人から新たな夢を実現するために力を貸してくれないかと声が掛かったのです。その夢の実現先も日本国内ではなく、一度も行ったこともない私にとっては全くの未知の国モンゴル国でした。

しかし、その夢の実現には、これまでの職業人生で得た知識・ノウハウや人脈などが生かせること、夢が実現すれば日本国とモンゴル国との友好関係にも大きく貢献するということが分かり、自分の力が少しでもお役に立てればと考えて参加することとしました。

その夢とは・・・

モンゴル国は、1990年に社会主義から民主主義へ移行して18年、急ピッチで新しい時代を切り開こうとしている発展途上国です。面積は日本の約4倍もありますが、人口は約50分の1の約260万人(新潟県の総人口(約244万人)より約16万人多い程度)です。

基幹産業は農牧林業と鉱業で国力も乏しく、社会のインフラ整備は我が国と比較すれば30年は遅れているそうです。そこで資金面・技術面から支援して、インフラの一つ「小型物品の宅配サービス」(我が国では昭和50年代のはじめにこのサービスがはじまり、今では日常生活に必要不可欠となっていますが、モンゴル国では初めて)をスタートすることがその夢でした。



首都ウランバートル市街地

夢の実現に向かって

新しい事業をスタートするには、モンゴル国に日・蒙双方が出資した合弁会社を設立した方がよいということで、日本から出資する会社を国内に設立することからはじめました。

新しい会社の定款作成から役所関係への諸手続きなど、

数ヶ月かかり、なかなか骨が折れました。私も長いこと小役人の端くれをしていましたが、国民に威張っている役人が多いのにはとても閉口しました。

モンゴル側とサービスの大筋を決めるため、数回モンゴル国へ行きましたが、双方の言語の違いもさることながら、会社設立の関係法令や制度、商慣習などの違いがあり、双方が理解・了解するまでかなりの日時と労力を要しました。

総論賛成、各論反対という言葉がありますが、まさにそれを地でいく日々で、理解してくれないと通訳のせいにする場面が何度かありました。また、日本側が投資資金からノウハウのほとんど全てを提供するのですが、モンゴル側のプライドを尊重して顔を立てていかないと、細かいところでスムーズにいかないことも学びました。

(宅配サービスは、10月からスタートしました。)

心の癒しはモンゴルの休日に

モンゴルでの土・日の休日は、極力モンゴルの自然、文化、風土、歴史に触れるようにし、仕事の疲れを癒しました。ゲル(遊牧民の家)体験、モンゴル舞踊・音楽観賞、モンゴル相撲見学、寺院・歴史博物館訪問など。

その中で最大の圧巻は、モンゴル建国800周年記念「チンギスハーン騎馬隊イベント」でした。はるか遠くまで広々と広がる草原を舞台に、500頭の馬を使って軍人による騎馬隊が、チンギスハーン800年目の帰還として13世紀の兵法や戦術を目の前で2時間30分に亘り再現してくれた壮大なスケールのドラマで、大変感動しました。



モンゴルの青い空と広大な平原にて

人生は前向きに

元気であれば仕事もできますし、微力でも社会に貢献できます。また、旅行や趣味を楽しみ・生きがいも見出せます。それがまた新たな活力を生み出します。そう信じてこれからも力(知力・体力)の続く限り、人生を前向きに生き・楽しもうと思っています。

「年を重ねただけでは人は老いない 好奇心と情熱さえあれば その人はいつも青春なのだ」(サミュエル・ウルマン「青春の詩」)

同窓会に結びつけた旅抱

阿部 俊輔 (高16回)

・ 京都に住んで29年、還暦を過ぎて、「ふるさと」の風のそよぎ、葉っぱのにおい、土の柔らかさが・・・なつかしい。

・ 100年前、戊辰の役では、どのような人がどのような衣服・装備で「ふるさと」大蒲原や寺田の田んぼ道を通ったのだろうか？

・ 祖先はどんな対応をしたのか？ どういう思いを抱いたのだろうか？

そんなこともあって、今回の同窓会に結び付けて行ってみたくて思っていた場所を訪れました。

◎母成峠 ◎土津神社 ◎氷玉峠、大内宿 ◎叶屋番所 ◎河合継之助記念館 ◎医王寺 ◎滝沢本陣 ◎飯盛山・・・

よかったことは峠を下った温泉旅館のご主人、そば打ち道場の若い女性、民宿のご主人、通行ゲートの守衛さん、叶屋番所の tanino-okina、記念館よこで畑を耕している女性・・・に話を聞いたことで、地元の人が祖父や祖母から伝え聞いたことはリアルで、貴重なものでした。

☆ 小雨けむる母成峠、弔霊議会の立て札の傍らの小石を拾って帰り、黒谷 金戒光明寺、会津藩殉難者墓地、佐久彦神霊、世話人、長嶺久米、越後国蒲原郡住人の前におく。

一もの言わぬ墓でも、これほど雄弁に魂を感じる場所はないー

一権はあっても天は見当たらない。遠く届かぬものだが、「天」を追いかけては先がないのではないか。何をもち「天」とするかだが・・・

一自己を戒め愚直に努力を惜しまない日々を送る糧としたいー

備え付けの大学ノートに寄せ書きの一行を記してこよう (20年 6月 9日)



母成峠古戦場碑にて

臥龍原頭幾星霜

青木 敏和 (高18回)

私は昭和22年生まれ、村松町御徒町 (現在五泉市城下) の出身です。昭和41年に村松高校を卒業し、昨年には還暦を迎えました。

村松高校第18回生の「第7回・関東同期会」を平成20年5月29～30日の1泊2日で開催することになり、幹事としていろいろ計画を練り上げました。そこで今回初めて東京を離れ、静岡県伊豆長岡温泉の武者小路実篤所縁の宿「いづみ荘」に決め、男子9名、女子9名の18名が集合して楽しい同期会となりました。

村松、五泉、新発田からも1人づつ駆けつけ、村松の銘酒「越後杜氏」の大吟醸酒の差し入れもあり、宿の若女将の配慮で食べきれない程の料理が並べられ、全員が大満足のうちに宴会はお開きとなりました。2次会でもカラオケで盛り上がり、夜の更けるのも忘れてスッカリ青春時代に戻っていたのです。

翌30日は、宿のバスで沼津市の干物店に立ち寄り、幸運にも雲の隙間から残雪の残る富士山を望めて感激でした。その後、伊豆の国市菰山の反射炉を名物ガイドに案内して貰い、また近くの代官屋敷江川邸に行き、NHKの大河ドラマ「篤姫」が薩摩から江戸に上る時のロケーションにもなった部屋などを観て大いに楽しみました。やがて、そろそろお腹も空いてきたので函南町へ移動し、食事処「姫沙羅」で別れを惜しみながらの昼食となり、いつまでも名残は尽きませんでした。

次の関東同期会は越後湯沢での開催と決まり、来年の再会を楽しみに約束して散会となりました。



第18回生・関東同期会 於「いづみ荘」

臥龍原頭幾星霜

切磋琢磨の功を経て

花紅の香に匂ふ

誉れは高さ松城の

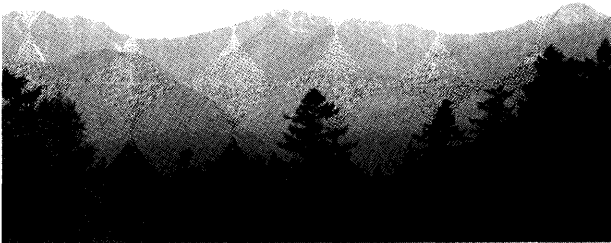
健児が胸に血や躍る

日本百名山・鳳凰山登山

阿部 勇 (高9回)

鳳凰山とは、南アルプスに位置し、北岳とは峰を別にして登山者の間でも人気の山である。現在では、地藏岳(2,764m)・観音岳(2,840m)・薬師岳(2,780m)と三峰の総称になっている。今年、7月19日(土)から21日(月)にかけて仙台より同じ登山クラブに所属する3名で登ることにした。

初日は、仙台駅発7時16分の東北新幹線で東京駅へ9時4分着、新宿駅発スーパーあずさ100号で甲府駅へ11時27分着、山梨交通登山バス(25人乗り)で夜叉神登山口へ14時30分に着く。いよいよ登山を開始、70分程で今夜の宿・夜叉神小屋に到着する。初日は快晴のため見晴らしが良く、小屋の展望台からは日本で二番目に高い山・北岳(3,192m)が望める。日本で一番高い山・富士山(3,776m)に次ぐ山である。



夜叉神小屋からの展望・白峰三山 右から北岳(3,192m) 間ノ岳(3,189m)、農鳥岳(3,009m)

二日目は夜叉神小屋から鳳凰小屋までの原生林の樹林帯と花崗岩に生えるハイマツ帯の縦走コースである。高所のため天気が目まぐるしく変化し、晴れたり曇ったりを繰り返す。時にはガスが発生した。早朝5時に登山を開始し鳳凰小屋まで12時間と大変きつい一日であった。



観音岳(2,840m)手前で厚い雲がやってきた。

薬師岳から花崗岩の登山道となる。ハイマツ帯の登山道は、標識が確りしているので間違える事はない。岩に赤いペイントで登山道を印している。山の天気は気ままに、観音岳手前の2,700m付近で、それまで快晴だったのが急に10分程で厚い雲に覆われて、視界が2~3mと最悪の状態になり、岩陰で30分程天気回復を待った。しかし、増々ガスが発生して展望は皆無となった。

予定していた今日の頂上地藏岳を断念し、薬師岳小屋に戻り、明日の頂上アタックに変更した。



頂上地藏岳のオベリスク(2,764m)幸の河原より撮影
翌日は快晴となり、早朝5時に小屋を出発し、地藏岳頂上には7時に到着する。頂上からの眺望は大パノラマで、雲海に浮かぶ富士山が見事であった。



母の「のっぺ汁」

白石 キヨ (高9回)

老いの紅うすくさしけり初鏡
春めきて飲み忘れるし粉薬
古稀坂を登るも楽し花の下
ふるさとの香り届くや笹ダンゴ
亡き母の味に似てるしのっぺ汁

句に添えて

昭和二十八年東京浅草の実兄の会社へ就職以来、いつの間にか半世紀過ぎた今、故郷への想いは募るばかりです。



第10回親睦ゴルフ大会報告

平成20年10月2日(木)恒例にしている松高東京同窓会の第10回親睦ゴルフコンペが、埼玉県の入間カントリー倶楽部に於いて開催された。前日まで強力な台風15号の影響が相当懸念される状況で、場合によっては中止もあり得るかと思いをしていた。しかし、参加者全員が当日まで「清く！正しく！美しく！」過した？ためか、夜までに台風が熱帯低気圧と化し、太平洋上に消散霧消してしまった。

当日は朝から快晴に恵まれ、スコアの悪いのは悪天候の所為などとは言えず、皆さん覚悟を決めたような表情で集合してきた。はるばる新潟から夜行に乗って元気に参加された間藤氏始め、今回初参加の石黒勝夫(高14回)氏など11名が勢揃いして、8時28分に3組でのスタートとなった。成績は下記のとおりであるが、東京同窓会の中には腕が鳴って仕方が無いという会員が、まだまだ多く居られる筈である。奮ってご参加下さいませようお待ちしております。

いつも亀山氏、吉井氏のご尽力には感謝申し上げます。成績(敬称略)

優勝・佐藤 克、準優勝・間藤謙一、3位・石黒勝夫

参加者名(順不同・敬称略)

- 1組 鈴木輝雄、片柳ムツ、鈴木理恵子、吉井 清
- 2組 亀山知明、瀬倉武志、金子鶴男、
- 3組 間藤謙一、大橋貞夫、石黒勝夫、佐藤 克



スタート前に記念撮影

第11回松高東京同窓会 親睦ゴルフ開催のお知らせ

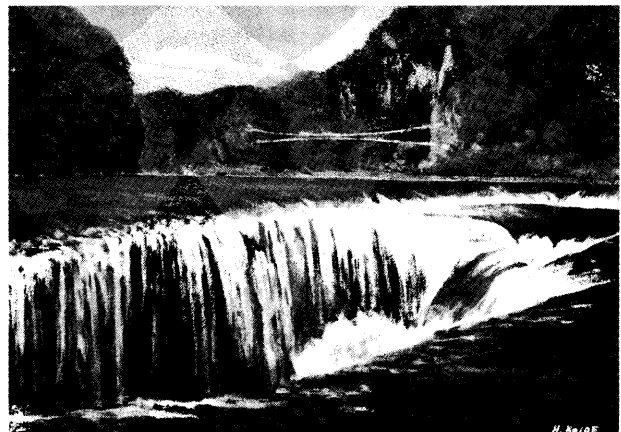
平成21年4月2日(木)、入間カントリー倶楽部に於いて第11回親睦ゴルフ会を開催致します。

参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

吉井 清 (高8回) Tel&Fax : 042-527-6482

亀山 知明 (高3回) Tel : 042-572-5096

——個展のお知らせ——



吹割りの滝 F15



西沢溪谷 F50

第11回 小出博三氏(高8回)油絵展

■会期 '09/3月1日(日)~3月7日(土)

AM11:00~PM7:00 最終日はPM5:00まで

■会場 東京交通会館B1(シルバーサロンA)

千代田区有楽町2-10-1 Tel. 03-3215-3826

JR線 有楽町駅 京橋口 下車正面

地下鉄 有楽町線 有楽町駅 下車A8出口

●アトリエ● 〒274-0812 船橋市三咲7-22-20

Tel. 047-448-9632

◎ 会員の皆様が催し事などの告知がございましたらご相談ください。6月の大会号掲載は4月初旬に締め切り。新春号に掲載の場合10月末が締め切りになります。

また、原稿・写真などもお寄せ下さいますようお願いしております。

〒158-0094 世田谷区玉川4-20-8 大橋貞夫

Tel & Fax : 03-3709-1570

Email : sadao-o@gb4.so-net.ne.jp



2008年、国内の主な出来事

- 1月10日・スキー場積雪（JR東日本調べ）湯沢高原 140 ㎝
・米1ドル=110.08円 日経平均株価 14,599.16円
- 13日・福田内閣支持率（朝日新聞調査）34%
- 22日・07年のコンビニ売り上げ1.3%増で7兆3631億円
- 30日・中国天洋食品の冷凍ギョウザを食べ中毒で入院
- 2月01日・スキー場積雪（JR東日本調べ）湯沢高原 240 ㎝
- 03日・降雪…八王子市で9cm、横浜市7cm、大手町3cm
- 07日・大相撲、時津風部屋で序の口力士の暴行致死事件で前時津風親方と兄弟子3人逮捕される
- 17日・第二回東京マラソン開催、2万7386人が参加
・海上自衛隊イージス護衛艦「あたご」が漁船と衝突 漁船員2名行方不明
- 3月07日・スキー場積雪（JR東日本調べ）湯沢高原 340 ㎝
- 13日・米1ドル=102.71円 日経平均株価 12,433.44円
- 22日・東京地方のサクラ開花宣言（気象庁）
- 27日・新東京銀行へ400億円追加出資を都議会で可決
- 31日・国営昭和記念公園の07年度入園者349万人で過去最高を更新、06年度より9万7千人増
- 4月22日・福田内閣支持率25%（朝日新聞）
- 24日・06年の市区町村平均寿命、第一位は男性が横浜市青葉区81.7歳、女性は沖縄県北中城村89.3歳
- 5月01日・大人になったら何になる？（第一生命調査）小学生男子①野球選手②学者、女子①食べ物屋②看護師
- 02日・JR3社の3月期決算、過去最高の経常利益
・5月1日調査で福田内閣支持率は20%
- 03日・原料高騰で加工食品の値上げ続く（農水省）
- 13日・道路整備財源特例法が衆議院で与党の3分の2以上の賛成で再可決し成立
- 23日・最高気温、館林市32.2度、都心30.3度を記録
- 6月02日・米1ドル=106.30円 日経平均株価 14,440.14円
- 06日・3月期決算、①トヨタ ②三菱UFJ ③NTT
・財務省は深夜タクシーで金品を受け取った職員が383人いたと発表（タクシー接待）
- 08日・秋葉原路上で無差別殺傷事件7名死亡10名負傷
- 14日・岩手・宮城内陸地震で11名行方不明159名負傷
- 25日・神港魚類（神戸）、魚秀（大阪）が中国産ウナギを三河一色産と偽って販売、農水省課長に口止料
- 7月01日・タスポ導入（たばこ自動機の成人識別カード）
自販機でタバコ購入にはカードが必要となる
- 08日・大阪道頓堀の飲食店「くいだおれ」が閉店
- 10日・国立大学施設など文化省汚職で幹部3人懲戒免職
- 7月10日・ビール市場上期出荷量が過去最低、出荷量順位は①アサヒ、②キリン、③サントリー ④サッポロ
- 14日・洞爺湖サミット後13日調査、福田内閣支持率24%
- 28日・北陸近畿地方豪雨、都賀川（神戸）で川遊びの児童が流され7名死亡1名行方不明、落雷で1名死亡
・JR平塚駅で女性が刃物で歩行者を切り、7名負傷

- 8月01日・今年度の私立大学入学生が定員割れ校47.1%
・07年日本人平均寿命は男性79.19歳、女性85.99歳
・米1ドル=108.79円 日経平均株価=10,394.59円
 - 05日・大雨のため豊島区雑司が谷で下水道工事中の5名が急激な増水で流され死亡
 - 08日・北京オリンピック開会（24日、閉会）
 - 18日・第90回全国高校野球記念大会で大阪桐蔭高が優勝
 - 21日・北京五輪、女子ソフトボールで日本が金メダル
 - 9月01日・福田首相、緊急記者会見し辞意を表明
 - 02日・日本相撲協会が尿検査実施、露鵬と白露山が陽性反応を示し再検査でも陽性、8日の理事会で両力士の解雇と北の海理事長の理事長職辞任を発表
 - 06日・三笠フーズ（大阪）が工業用に限定された汚染米を食用と偽り販売していたことが発覚
 - 13日・売上高世界3位の衣料品店「H&M」が銀座に一号店を開業（30ヶ国に1600店、売上1兆4500億円）
 - 14日・汚染米で製造された商品を回収「芋焼酎かのか65万本を始め、さつま美人、美少女などの焼酎販売停止
 - 18日・西日本各地の中学校、保育園の給食や老人ホームで「汚染米が使われていた」と農水省発表
・福岡市の公園で小1男児が絞殺される（犯人は母親）
 - 19日・汚染米問題で農水大臣、事務次官が辞任
 - 21日・千葉県東金市で保育園女児の絞殺事件
 - 24日・自民、公明党が選挙の顔として麻生内閣を誕生
 - 28日・中山国土交通大臣が相次ぐ問題発言で辞任
 - 30日・米1ドル=104.57円 日経平均株価=11,259.86円
 - 10月01日・大阪難波の個室ビデオ店で客が放火、15人死亡
 - 09日・物理・化学で日本人4名ノーベル賞受賞決まる
 - 10日・米1ドル=100.12円 日経平均株価=8,276.43円
 - 23日・4日夜、都内の脳内出血とみられる妊婦が都立墨東病院のほか8病院に救急搬送を断られ死亡
 - 26日・横浜松坂屋が閉店（144年の歴史に幕）
 - 30日・米1ドル=98.74円 日経平均株価=9,029.70円
- ★校正、印刷等の都合で11月～12月は割愛させていただきます

編集後記

新年おめでとうございませう
本年もよろしくお願ひ申し上げます

今回は十四回生から十八回生まで四人の方々へ寄稿して頂き、望望の若返りが多少は進んだと喜ばしく思ふ。若い会員がこれからも増えそうな気配があり、期待するところ大である。しかしながら、先輩の方々にもこれまで以上に寄稿をお願い致したく、ご協力のほど切にお願ひ申し上げる次第。

小島学校長にはお忙しい中、村松中学開校時に廃校の危機があったという厳しい当時の事情を寄稿して頂き、設立時の先人のご苦労が身に沁みる思いであった。世界的経済危機が叫ばれている昨今、気持ちだけでもおおらかに持ち続けたいもの。会員諸氏の健康と大飛躍を心よりご祈念申し上げます。 広報委員会 記

平成21年1月 第46号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中27回）書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局

〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

Tel & Fax : 03-3488-2117 (石黒)